

今月の15首

佐佐木幸綱・選

三人の子を連れ福島の空気の匂いに少しずつ染められつ

またひとり青きシートくに包まれて瓦礫くの中を運ばれにけり

朝見れば昨日より大きくなっている苦瓜と一歳と三歳の子ども

日本リーベは蔑称のごと響くかな少年の顔ははつか歪なみて

パンを焼く匂いは世界共通の夜明けの気配動き出す朝

街の空高きところに月上がり地上の営みを離れて光る

バタツク族の犬食う町に眠りいる黒犬二匹ゆめゆめ太るな

帰らな はちす葉のうへ露ひとつうろろとして晩夏光あり

娘この婚のすみやかならぬ哀しみよ新郎の家族は福島に在り

発光器持てる魚のかなしさは水族館の深夜に点る

くちづけの定点として左手の痣に上書きしていく記憶

午後八時と指定通りに通販の折りたたみ自転車わが家に届く

日本一暑い熊谷へあつべえの面をかぶりて熱射を避ける

蛇とはほとほと長し石組みの奥より総身を時かけて出す

身をせめてここに棲みにし人の日々青き実こぼす大き栗の木

駒田 晶子

和田 敏典

堀越 貴乃

羽鳥 潤

木村 俊介

松橋 雅実

水口 良子

山本 陽子

片岡なおこ

谷岡 亜紀

屋良健一郎

加利川友子

佐久間正城

河野 千絵

宇都宮とよ